

平成21年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成21年5月8日
島 根 県

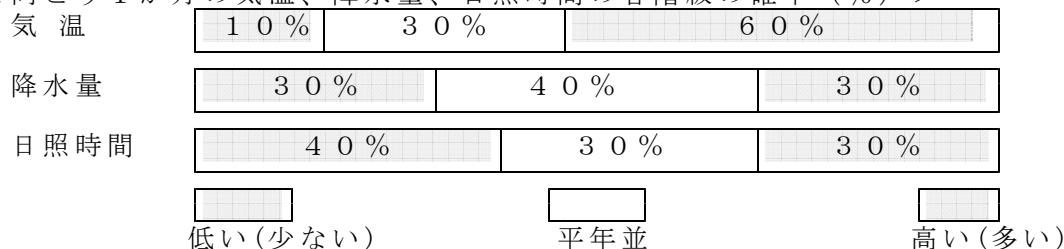
予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	やや多い～多い
		ニカメイチュウ	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	やや少ない
		黒斑病	平年並～やや多い
		黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並～やや多い
野菜	カキ	カキクダアザミマ	平年並
		タマネギ	ポトリ糸属菌による葉枯れ
	イチゴ	べと病	やや多い～多い
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
		灰色かび病	やや多い
	アブラムシ類	平年並～やや多い	

タマネギべと病注意報発令中（4月2日発表）

ヒメトビウンカ注意報発令中（4月23日発表）

中国地方1か月予報（5月2日～6月1日・広島地方気象台5月1日発表）

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 5月7日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① ムギの生育は平年に比べてやや早い。

② 5月7日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年並みである。

③ 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域
 発生量 やや少ない
 ①巡回調査地点における5月上旬の発生量は、発生圃場率1.7%（平成2.5%）、
 発病率0.2%（平成0.5%）で平年に比べてやや少ない。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
 発生地方 県下全域
 発生量 やや多い～多い
 予報の根拠
 ①4月23日付け注意報第2号参照。
 ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
 発生地方 県下全域
 発生時期 やや早い
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ①前年の第2世代成虫発生量は平年比1%で、越冬量は少ないと考えられる。
 ②予察灯への飛来は、5月第1半旬まで認められない。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容
 発生地方 県下全域
 発生時期 やや早い
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯への飛来は、5月第1半旬まで認められない。
 ②4月下旬の圃場すくい取り調査では、捕獲数は2.2頭（平成1.7頭/20回振）、
 発生圃場率は70%（平成56.3%）で発生量は平年並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容
 発生地方 県下全域
 発生時期 やや早い
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①前年の新成虫の誘殺数は平年に比べてやや少なく（平成比36%）、越冬成虫量
 は平年に比べてやや少ないと考えられる。
 ②予察灯への飛来は、5月第1半旬まで認められない。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
 発生地方 県下「二十世紀」栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ①4月24日、県予察圃場で初発を確認した。
 ②4月28日の巡回調査（安来地区）では発病を確認していない。
 ③向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容
 発生地方 県下ナシ栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ①5月7日現在、県予察圃場では発病を確認していない。
 ②4月28日の巡回調査（安来地区）では、葉での発病は確認していないが、9圃
 場中4圃場で幼果での発病が散見された。
 ③向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(4) シンクイムシ類

予報内容
 発生地方 県下ナシ栽培地帯
 発生時期 平年並
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ①初飛来日は4月11日で平年並みである。

- ②前年のナシヒメシクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシクイの誘殺数はやや多い。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) ハマキムシ類

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

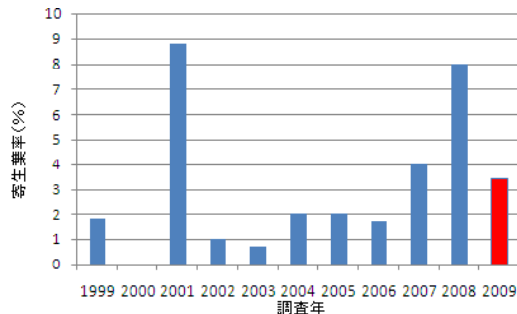
- ①初飛来日は4月11日で平年並み。
②フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) ハダニ類

予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
②4月下旬の巡回調査（安来市）では寄生花そう率は3.4%（平年3.0%）と平年並み。クワオオハダニが中心。
③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



ナシにおけるハダニ類の寄生率の推移

3) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県下カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
②5月1日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
③向こう1か月の気象は気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率6.7%（平年11.3%）、発病株率0.1%（平年0.3%）とやや少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや多い～多い
予報の根拠 注意報第1号 参照

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率36.7%（平年68.7%）、発病株率0.3%（平年1.8%）で平年に比べてやや少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや多い

予報の根拠

①巡回調査地点における5月上旬の発生量は、発病葉率0.6%（平成0.2%）、発病果梗率1.6%（平成0.4%）で平成に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) アブラムシ類

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平成並～やや多い

予報の根拠

①4月下旬の調査では、発生圃場率は28.6%（平成22.6%）、寄生株率は7.1%（平成6.5%）で発生量はほぼ平成並みである。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp